

## 2012年度給与改定と12月一時金の交渉中間報告

給与表の改定と一時金の交渉が続けられています。原子力ユニオンは、決着したようですが、原研労組は納得していません。

給与表の改定については、40歳以上について平均0.2%の削減を提案しているものです。従来の状況でしたら、不満ながらも妥結するところですが、原子力機は、労組の反対を押し切って、7月に「大幅な給与削減の特例措置」を強行実施しています。それも、ほかの行政法人で、できている下位級への緩和策など、一切なしで強行しました。平均7.8%になる削減を強行しておいて、比較的小さいものと言えどもさらに削減を飲めという。そこが理解できないところです。

そもそも、給与表は本給の額を示すものです。労組の反対にもかかわらず、それを無視する暴挙を行って、その上に「元の表の上の小さな削減を飲め」という。思想も節操もない提案に思えます。今回の改定で削減される職員だけでなく、「特例措置」で怒っている職員に理解できる機構の提案を求めます。

### \*\*\*\* 国会解散で独立行政法人通則法改定案は廃案になりました \*\*\*\*

#### <しかし、通則法改悪の方向は変化なしと予測される>

11月16日の国会解散で、我々が反対していた独立行政法人通則法の改定案は、審議されることなく、廃案になりました。これは、同法の問題で廃案になったのではなく、国会の全体の動きのなかで、審議にも至らず廃案になったものです。近年の「行政改革」をめぐる動きを考えれば、国会が再開されれば、再度上程されると予想されます。特殊法人労連では、国会の情勢を見て、先の会期中の「改悪反対署名」の提出を行わず、改悪の動きが再開した時に使用することにしていました。署名集めは継続します。

### \*\*\*\* 国家公務員の退職金削減関連法は成立 \*\*\*\*

一方、国家公務員の退職手当削減は、解散のどさくさの中、一部野党の反対を押し切って成立させられてしまいました。「退職給付が、年金を合わせると民間企業の平均より約400万円高い」とされたものを、民間に合わせるための削減だといえます。2014年7月までに3段階で引き下げる計画です。多くの公務員は、震災で大変な思いをしながら働いており、そこに先の「給与削減特別措置」で、平均7.8%もの削減を強行されています。今また、大幅な処遇改悪が決まりました。

真面目に働く公務員が減らないか心配です。この退職金改悪、我々原子力研究開発機構

にどう影響するののかも懸念されます。

< えー、家賃まで!! >

さらに政府は、国家公務員宿舎の家賃を、2倍にする方針を決めた。その政府は、12月の総選挙で変わるかもしれないが、家賃の値上げ方針は、引き継がれる恐れが強い。そして、これもまた原子力機構に反映される可能性が大きい。いい加減にしてくれ!!

### 討論会「原子力の将来と原子力機構の役割を考える」(10月31日) 報告その3

< 国の再処理計画、もんじゅ、理解できない >

Dさん：僕なんかにはまったくわからないところがあります。あの「もんじゅ」をまだ遊び道具に使おうという。それも、長寿命FP(核分裂生成物)の消滅処理に使うなんて、どんなふうにするのかわからない、腹が立ってくる。

委員長：民主党の中では一度は「もんじゅは」やめの方向が出た。そのままだろうと思ったら、復活した理由は青森です。

Cさん：再処理ですね。青森対策。要するに使用済み燃料の送り場所の問題。そこからきている。

委員長：もともと純度の高いプルトニウムをウラン燃料に混ぜるという発想がある。群分離+消滅処理も同じ要素がある。

Dさん：「もんじゅ」の遮蔽とかは今のままでいいの？

委員長：燃料の取り扱いは面倒だけど、炉の中で燃やし始めれば同じようなものです。

書記長：消滅はいいけれど、「もんじゅ」の危険性というのをどこまで認識しているのかだと思いますが。

委員長：「ある年限を決めて」とか言っているのは、[むつ]みたいになってきたなと感じる。「もんじゅ」はまだフルパワー運転もしていない。マイナーアクチノイド(MA)をつぶすといっているけれど、MAを大量に含んだ燃料集合体を作ろうとは考えていないでしょうね。燃料工場がないですから。小さな試験体を入れるぐらいではないですか。それよりは口実にして、「もんじゅ」を生かしておくことを考えている人たちがいるのだと思います。

Cさん：青森県知事を納得させて、燃料を送り出すためだよ。

書記長：そのために、稚拙な漫画を描いて、危険な思いをさせるという話だ。お金も使うし。率直に「おかせてください」となぜ言わないのだろう。

Dさん：ワンスルーということになったと思ったが。

書記長：ワンスルーは、今の技術では一番合理的だと多くの人が思っていると思う。「では、どこに置くの」という時に、答えがないので、すぐたじろぐ。それで、「再処理やりますから、置かせてください」と言い、再処理やるからには「燃やすこと

を考えています」と言ってしまう。とにかく置き場所がほしいのだろう。それに対して、東海村の村長は、「今となっては、使用済み燃料を青森に押し付けるのは間違っている。原発で潤った自治体が引き取るべきだ」と言っていた。あまりに率直に言ったので驚いた。

委員長：そうです。「青森県知事が持って帰れというなら、原発の敷地内にドライ保管施設を作って引き取るべきだ」と言っていました。たとえ「もんじゅ」を動かしても、プルトニウム消費の勘定は全然合わない。中間貯蔵プールなどを作れるというだけの話です。それを原発の中に作ればいいだけの話です。

「もんじゅ」は原子力機構が持っているのだから、「そんな無駄遣いをするのか」という議論に機構がさらされる。普通の人から見たらとんでもない無駄遣いです。そんな時に、われわれは何かを言わなければならないのかということですが、言ったらそれなりの、反発とかあるでしょうね。隣の組合などは、原研労のことを「あいつら「もんじゅ」に反対して原子力機構の敵だ」などというかもしれませんね。

書記長：いや、私なんか個人的には「もんじゅは危険だからやめるべき」ともう言っちゃってますね。

Aさん：最近どうかと思うのは、事故で、廃棄物が世のなかの注目を集めている。廃棄物の研究はあまり進んでいないのだが、その中で、「核変換というアイデアがあります。その中で使うんです」とか口実にして生き残りを図るというのは、いかなものかと思います。あてがないのに。

書記長：いや、真面目にやるなら良いと思う。J-PARCでは、初めは消滅処理と言って、大きな加速器を作ろうとした。あの時はいかがわしいと思いました。なぜかという、「どういう反応・プロセスを使って、そのためにはどういう核データがあって」というのが第1ではないですか。その研究には、エネルギーは必要だけれども、ビーム電流はそんなにいらぬはず。それなのに、なぜ巨大な加速器を作るのか？、でもその部分は後退して穏やかな話になっています。地道に押さえながら進めるのではなく、「お金を取ればいいや」といきなり大きな計画をやりたがる人がいます。

そういうのとは別に、私としては、将来のために原子力利用を考えたい。

### ＜ 機構は今の状況にどうコミットする？ ＞

Cさん：機構として、福島対応だけで、原発再稼働にコミットする気はないのかね。

委員長：ないです。

Cさん：このままでは安全神話そのもの。起きた後どうするのかという話が抜けている。何年か前にベントフィルターを検討するかという話もあった。もしつければ、起きた後どうするのか、それを考えておかないと、世界的な基準を満たさない。論理的にも無理だ。機構として、「再稼働するならこういうことが必要」とかいう気はないのだろうか？

委員長：聞こえてこない。

Eさん：そういう力量はないのではないのでしょうか。

書記長：力量も、気もないと思います。今の上層部は、ひとえに目立ちたくないので。目立ったら、責任や力量を問われると思うのでしょ。

委員長：本当に気概があるなら、政府がこれからも何年かは原発を運転するというのだから、「安全をさらに向上させないと国民の納得は得られない」という論理は成り立つはず。

Cさん：そうです。

Aさん：でも今再稼働させると言っている人たちは、今のこれでよいのだと言っているのだから、「向上させる」と言うと怒るわけです。昔のあれになっちゃう。

委員長：ベントフィルターに関しては電事連も昔付けるといった。付ければ、固体状の放射能は1000分の1にはなるだろう。設備全体が健全であれば、ですが。

書記長：だけど、「とんでもない地震とかとんでもないことを、本当に考えなければいけない」ということが今度の教訓だと思う。ベントフィルターどころじゃないと思います。軽水炉はやめるということです。

Cさん：軽水炉やりたいなら、せめてそれくらいは言えよということです。

書記長：僕は言ってもらっても面倒に思います。たとえば立地指針があって、「過去に大きな災害がなかった場所、それから将来もないと考えられる場所」とか言っている。そんなところ、日本国内のどこにあります？ それを作った当時は、それで、良いと考えたと思うのです。石橋克彦氏は、「原発を作り始めたときは、たまたま、日本は大きな地震が少ない時だった。地震学も進歩していなかった。」と言っています。今となって考えれば、将来大きな地震がないと考えてよい場所などない。だから、原発を作ろうというなら、とんでもないことが起きて、被害が一定程度に抑えが効くという基準にしなければいけないと思っている。だから、活断層の話なんかチャンチャラおかしいと思っている。確かに、原子炉建屋とタービン建屋が分かればよかったら、配管だけでなく、いろいろな配線だってあるだろうし、どんなことになるか分からないからまずいけれど、「ゆれ」という面では、活断層のあるなしと別問題だ、どっか深いところガバッと動いたのが地震波としてやってくる。そこに原発の近く、地表近くに活断層があろうがなかろうがあまり関係ないと思う。福島だって、あそこに活断層があったから、想定を超えた揺れだったわけではない。そうかもしれないけれど、そんなのがあるなんて話がないのにそうなった。活断層がどうのこうの言う話は、変な方向に行っている。この間NHKの30分くらいの番組では、何人かの人が活断層があるから地震が起きただの言っている。一人だけは、僕と同じ認識で、揺れの大きさの問題ではなく、サイトの中でズレが起きたらまずいと言っていました。

話は戻るけれど、僕が考えているように原子力をもうちょっと追及してみようというのは？今の雰囲気から言うと、世間的には、反対派は「何を言っているのだ」

と、言うし。「こんな事故が起きたのに、まだやりたいって言うのですか」と僕なんか言われています。そうですって言っているのだけれど。

Cさん：電力会社が原発を持って、金儲けにしているところが問題なのでは、原子力というのはそれが全てではない。我々の研究テーマはそこが全てではないという意味では、反原発だろうがお互いに手を結べないわけではないよと、そこをどう説明するかだと思う。

書記長：ただ一方では、今度の事故を見て、「人間は放射能なんてコントロールできないのだ」という人もいる。確かに放射は嫌だけれど、それを言ったら、毒の物質、ヒ素だの寿命がない。何年たっても半分になるわけでもない。毒は毒のまま。量とか、害の程度の問題だと思っている。

Cさん：原子炉の事故というのは大きい。影響が。

書記長：すごく大きいです。それは無視できない。量的な問題は。

Fさん：今の軽水炉技術では10年に一回は起きている勘定。そういう頻度で起こるようなものをここ30年またつかうのかということは否定的に考えている。

書記長：そこは、そう思います。けれど難しいです。世界中で数百基ありますよね。千基はないけれど。数百基あって、10年に一回の割合と考えれば、一基当たりの頻度は非常に少ないんです。それを、コントロールするのが非常に難しいと思っている。一基あたりの事故はまれだから、技術とか考え方とかの上で、安易に考えられやすい。

Bさん：コントロールとは、フィードバックとかそういう意味ですか。

書記長：運転の方ではなく、それを理解しながら事故を起こさないようにするという意味です。

### ＜ 問題の一つは効率化 ＞

Cさん：経済活動で言えばどうしても、効率化。僕が原発についていかなものかと思ったのは、大飯もそうだが、2号機、3号機と背中合わせにして、真ん中に制御室を置いて、一つの部屋を半分に分けて、そっちとこっちで、対で制御コンソールを作って、おたがいに人数を減らそうとしている。それを見たときに、「これはだめだ」と思った。同時に何か起きたらどうすんだということです。言い訳は、事故はまれだからと言っています。運転員のコストを下げようとしている。同時に事故が起きたらアウトだよという観点が抜けている。安全神話です。

書記長：効率化という面では、出力密度や大きさもそうでしょう。

Cさん：今の軽水炉は出力密度を十分の1に下げれば、固有安全炉に近いものになる。崩壊熱があっても炉心溶融にならないくらいのものできるけれど、100万kWの設備で10万kWでは商売にならないと彼らは考える。

書記長：本当に何か何でもエネルギーが必要で、いくらお金をかけてもしょうがないと考えたらそれくらいやっても元が取れるのでは、原発がなくなったらエネルギー

がなくなるような話なら。

Cさん：事故が起きた時の費用を考えたら、そうすべきだと思う。しかし、彼らは納得しないでしょう。「このグローバルな競争社会においては。。。」とか言って。

### ＜ 確率×事故の大きさを考えなければ ＞

書記長：事故のリスクという要素があって、起る確率にける被害の大きさを考えて、平均的には幾ら毎回損しているという風に考えたら、それなりに答えが出ると思うけれど。ところが多くの人は、かける1万分の1みたいな時にゼロだと思っちゃうらしい。かける被害の大きさの積はとんでもないのだということを考えないのです。最近買った本だけど、原電にずっと務めていた人で、退職し、今度の事故で、自分が被害者になって、逃げまわったりしなければならなくなった人、本の後半で、原子力についてどう考えたかが書いてあるのですが、自分が仕事をやっているときに、地元の人に大きな事故が起きるのは1万年に一回だと説明したそうです。するとその女性は、「一万年に一回と言っても明日起きるかもしれない」といったという。それに対して、彼は、確率論を理解してもらわなければならないと思ったそうです。ところが実際に事故が起きたら、一万年に一回といえども、かける事故の大きさだということに今気が付いたという。確立論を教えなければみたいなことを言っている人が、そういう間抜けなことを言っている。その神経がわからない。でも彼は、気が付いたと言っているからまだましです。原子力学会など、気が付いていない人が大勢いる。

Bさん：まだ気が付いていないよね。

Cさん：一万分の一が明日来るかもしれないという方が正しいと思いますが？

書記長：僕はそうは思っていないです。個人に対するリスクの問題ではないと思っているから。

委員長：いつかの原子力学会誌に、リスクと被害の大きさを掛け算して、一人当たり2500円とか3000円とか馬鹿な計算をしているのが載っていた。

Aさん：自動車事故と比べたやつですね。

委員長：いっぺんに与える被害が大きすぎるものはだめ、というのが本来の発想だと思います。

書記長：その計算だって、間違っていると思います。この辺で事故が起きて、東京圏までだめになったらその損害はいくらになるのですか。計算はアンダーエスティメイトしていると思います。確立だってそうです。昔、何とか報告があって、大事故が起きる確率を天文学的な数字を言っていた。今は、年に一万分の一とはよく言われるが、それだと、100基で100年に一回です。千基あったら10年に一回とんでもない事故が起きる割合。現実はそれに近かった。

Cさん：昔の報告では、1年あたり10のマイナス6乗、100万年に一回のようなことだった。



書記長：自分がある原発の担当者だとして、一万年に一回の事故を考えるとしたら、これは容易ではない。そういうトレーニングされている人は、原子力業界にどれだけ居るのですか？ まったく逆でしょう。そんなことを考えない人がほとんど。

### ＜ 電力会社や国は原子力を扱える組織なのか疑問 ＞

Gさん：あと私は、今回の東京電力の対応、それ以外も似たようなものだと思うのだけれど、原発を扱うような組織ではないと思う。今、新しく規制庁ができたのだけれど、旧の通産の時、福島でデータねつ造が見つかって、GEの人間が、検査に入って、何回か、内部告発したのだけれど、通産は動かなくて、どこの誰それが告発したと東京電力に教えているのです。ひどいのです。検査でいろいろ欠陥が見つかり、GEは異常があることを書くべきだと言っているのにすべてひっくり返して、「異常なし」にしていた。このごまかしが後で問題になって、一時期東電の原発が全て止まった。ああいう電力会社の体質は9電力で共通したものがあるのではと危惧します。東京電力は9電力のトップですから。

Gさん：中越沖地震で、柏崎刈羽原発の7基が被害を受けたけれど、何号機だったか、格納容器が傾いたという報道をみた。これは確認が取れていないので、見学に行ったとき聞いたのだが、回答がなかった。

書記長：不等沈下したのでしたっけ。

Gさん：知らん顔して使っているのがおかしい。

委員長：フランスの労働組合CGTの幹部が日本に来て、全労連の呼びかけで、シンポジウムと懇談を行ったのだけれど、彼らは、旧原研の組合に近いような感覚を持っている。中で発言したり国会に働きかけたり、規制を独立させる法案を作るよう働きかけたりして実現させている。各サイトの地元で安全かどうか見る委員会を作らせたりしてきたと言っていました。「だからフランスは大きな事故を起こしていないでしょう」と言っていました。ベントフィルターはすべてつけさせましたと、胸を張って言っていました。一方、今の市場主義が入ってきて、派遣や下請けが増えて大変だとも言っていました。

書記長：新しい安全技術が出たら、すべてに適用させると言っていましたね。

委員長：それにEUがEU圏の原発の弱点探しをして、EUとして、改善を求めています。EUでは他国のものも気にしている。日本の中だけでごまかせる日本とは違う。これから、われわれが、個人だけでなく(労組として)何を言っていくかということも課題としてありますね。

Cさん：Gさんが言ったように、電力会社に資格がないだけでなく、検査する方についても問題がある。原研にも来ていたことのある、藤原節男という方が本を書いています。泊原発で、検査時の不具合の報告を書いたら、上司に改竄を要求され、拒否したら、継続雇用さなかった。それで裁判を起こしています。村上村長が言う、「この国は原子力を使う資格がない」ということは、電力会社にも規制の側にもい

える残念な状況です。

書記長：「資格がないからやらない」という考えもあるけれど、自分はそこまで思いきれない。ただ軽水炉はやめてほしい。「もんじゅ」はさらにやめてほしい。あれで大きな事故を起こしたらどうするのだろう。

### ＜ リスクの軽視がある ＞

Cさん：軽水炉はやはり、潜水艦、兵器から来ている。兵器はリスクよりメリットを優遇する。オスプレイも、落ちる可能性があっても相手より優位に立てれば認めるという論理。

書記長：自分で故障して潰れるよりは、敵に魚雷でやられる可能性が高いと考えたりするのでしょうか？

### ＜ 軽水炉に競争相手もあったけれど ＞

Cさん：原子力の開発当時、大型のガス炉が、軽水炉の競争相手としていたのだけれど、結局出力密度、建設費で軽水炉に負けた。そのあと高温ガスということで、高温にして何とか活路を見出そうとしたけれど、経済性がネックになった。事故のことを考えると、本当の意味で、軽水炉に経済性はないと私は思うが、ガス炉は負けている。でも事故は起きましたよね。そこをどう考えるかです。

Aさん：十分な安全対策を採らないということは、コスト意識も大きいかなとおもう。事業者だけでなく一般市民も考え方をしっかり持つ必要があると思う。最近の報道にありましたが、東京電力が、コスト削減ということで、原発だけではないのですが、今までは定期的に交換していた部品を、故障してから交換する方針に転換したという。その報道ではそれをコスト削減の良いことのように言っていて、それはおかしいと思いました。故障してからでは遅いだろうと思うのです。世の中の人も、「故障していないものを取り換えるのは無駄だ」という意識でいる限り、安全は担保できないと思う。それで、部品が壊れて事故が起きるとみんな怒るわけです。安全のためには、コストを掛けないといけないということをみんなも理解しなければならぬと思う。事業者だけの問題ではない。

委員長：本来それは今までの積み重ねの中で予防保全という形で出てきたものです。結果として、不意の故障で止まるよりは、あと5年持つかもしれないけれど、早めに交換して、不意の故障を防いだ方が良いという考えだった。

\*\*\*\* 次号に 続く \*\*\*\*

☆お詫びと間違いの修正： 前号：No4880,(64-15)の討論会報告で、2ページ目上から5行目に録音起こしミスがありました。お詫びします。

誤り：PWRはホウ素を入れた制御棒なのでBWRとは違うのです

修正：BWRはホウ素を入れた制御棒なのでPWRとは違うのです